

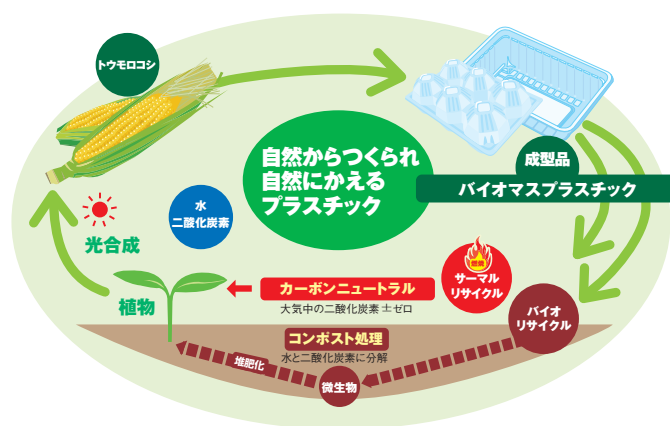
# 容器包装の見直し

## 環境にやさしい資材を使った容器包装への取り組み

石油資源を使うことの多い容器に代えて、植物資源などを使った環境にやさしい容器を導入しました。農林水産省が進める「バイオマス利活用フロンティア推進事業」にも取り上げられたバイオマスプラスチック製容器包装の推進により、省資源と廃棄物の削減及び二酸化炭素の発生抑制により、地球温暖化防止に貢献しています。

### バイオマスプラスチックとは

従来の石油などで作られるプラスチックと異なり、植物を原料としたプラスチックのことです。地球に存在する石油に限界があることは周知のとおりですが、繰り返し栽培することによりサステナビリティ（継続的な）に生み出されるバイオマスプラスチックは、生分解性プラスチックでもあり、水と二酸化炭素に自然に分解します。この水と二酸化炭素は、原料の植物が光合成により生成したでんぷんが、また自然に戻るので地球の二酸化炭素を増加させることにはなりません。（カーボンニュートラル）ただし、今回ユニーが導入したバイオマスプラスチック（ポリ乳酸）はトウモロコシを原料にしたもので、従来使用していたPETに比べ原料費が高いことと、若干熱に弱いことがこれから克服しなければならぬ課題です。



### 「バイオマスプラスチック」の特長

1

#### 石油に代表される化石燃料の節約になる

トウモロコシのような植物生まれの原料を使うことで、限りある化石燃料が節約できます。

2

#### 二酸化炭素を増やさない

バイオマスプラスチックを燃やしても、もともと含んでいた二酸化炭素が自然に還るだけで、地球上の二酸化炭素の増加にはつながりません（カーボンニュートラル）。

3

#### 微生物の力で水と二酸化炭素に分解

生ゴミと一緒に捨てても土の中の微生物によって水と二酸化炭素に分解され、廃棄物になりません。



#### バイオマスマーク

動植物を原料としたプラスチック  
使用後は水と二酸化炭素に分解され、  
自然に戻ります。



フルーツ用プラスチックケース



鶏卵用パック



バイオマスプラスチックケースはレジにて回収



### 「バイオマス利活用フロンティア推進事業」の実施

2006年5月に、ユニーが進めるバイオマスプラスチック製容器使用への取り組みに対し、農林水産省から「バイオマス利活用フロンティア推進事業」として認定されました。この事業はバイオマスプラスチックを広く一般に知ってもらい、利用を促進する目的でさらなる普及に努

めるものです。今年度の課題は「バイオマスプラスチック製容器の物流、商品パッケージとしての使用状況」についてであり、従来品（PET樹脂）との比較をし、今後の利活用の拡大を学識経験者・消費者・物流関係者・商品担当と「実証委員会」を開催し、検討しました。

